

博士前期課程（修士） / 共通科目 / 共通科目

科目コード：200011

臨床薬理学 Clinical Pharmacology

担当教員 平居貴生、田和 正志、安本 和生、藤村 政樹、松井 真、益岡 尚由、陳文筆、石橋 隆治、北田 宗弘、阪上 学、野村 一人

実務経験

開講年次	1年次前期	単位数	2	授業形態	講義
必修・選択	選択	時間数	30		

Keywords

学習目的・目標
薬物療法が必要な患者に対し、疾病の治療・生活力回復の促進、対象者自身の服薬管理能力向上のための看護、薬剤使用の判断、モニタリングを実践する能力を習得するために、障害機能別の薬剤療法と使用法の注意点の知識と、薬剤相互作用などの知識を学ぶ。
達成目標
臨床薬理の基礎知識（薬物動態、作用、副作用、禁忌）が解る
病態に基づく薬剤の選択方法が解る
臨床で使用される薬剤・副作用・投与時の注意点、モニタリングの注意点が解る

授業計画・内容

回	内容	授業方法	担当
1	薬物の作用（薬の役割、作用点、剤形、法的分類）	講義	平居
2	薬の体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）、副作用、相乗効果	講義	平居
3	腫瘍の病態と用いられる薬剤（理論）	講義	田和
4	感染症、呼吸器系の病態と用いられる薬剤（理論）	講義	田和
5	腫瘍の臨床における薬剤の使用法とその考え方 化学療法	講義	安本
6	感染症、呼吸器系疾患の臨床における薬剤の使用法とその考え方 抗菌薬、気管支喘息など	講義	藤村
7	中枢神経系の病態と用いられる薬剤（理論）	講義	平居
8	中枢神経系疾患の臨床における薬剤の使用法とその考え方 脳梗塞、てんかん、パーキンソン病、など	講義	松井
9	消化器系の病態と用いられる薬剤（理論）	講義	益岡
10	消化器系疾患の臨床における薬剤の使用法とその考え方 消化性腫瘍・過敏性腸症候群など	講義	陳
11	妊娠期・授乳期と薬物（理論）	講義	石橋
12	内分泌、代謝疾患の臨床における薬剤の使用法とその考え方 糖尿病、痛風など	講義	北田
13	循環器作用薬の理論と臨床	講義	阪上
14	妊娠期・授乳期の臨床における薬剤の使用法とその考え方	講義	野村
15	講義内容の看護への活用・展開についての討議	講義・討論	平居

教科書 授業の中で提示する

参考図書等 授業の中で提示する

評価指標 レポート80%、毎回のコメントシート20%

関連科目

教員から学生へのメッセージ 科学的な考え方を理解し、今後の専門看護に大いに役立ててください。